# 長崎弁に笑顔がこぼれた

長崎市青少年育成連絡協議会
広報啓発専門委員　**松林　廣美**

平成23年11月27日～12月2日、長崎県福祉保健部こども政策局こども未来課「東日本大震災被災地への家庭教育支援事業」のボランティアに参加し、宮城県石巻市、名取市を訪問しました。ボランティアの内容は、⑴子育てサロン等における現地の家庭教育支援チームの支援、⑵子育て支援サロン等において来所される乳幼児親子の支援、⑶現地家庭教育支援チームと合同研修会を開催し、資質向上を図る、というものです。

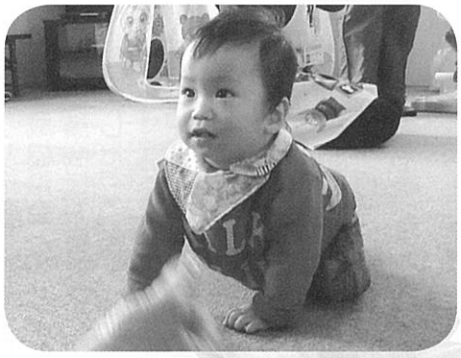
今回の目的は、子育て支援活動と、「完璧な親なんていない（ノーバディズパーフェクト：NP）」というカナダで開発されたプログラムを長崎のNPファシリテーターのリードで現地の家庭教育支援チームと合同で学ぶことでした。「ゲーム感覚で進めていく学び方」はお互いに初めての経験で、大いに盛り上がり楽しい交流ができました。

石巻のお母さんや子どもたちを元気づけようと、子育て中のママをはじめ民生委員や地域の皆さんと、子どもたちに人気があるお手玉を500個用意し、「災害に負けないで！」「一緒に子育て頑張ろう」などの応援のメッセージを書いた手作り色紙を添えて、仮設住宅の集会場等、５ヵ所の子育てサロン（０歳児～３歳児親子の交流の場）へプレゼントしました。「でんでらりゅうば」を歌いながらお手玉を披露し、長崎弁を説明すると笑顔がこぼれました。

絵本の読み聞かせ、手遊び、おもちゃ遊び等、ふれあっていくうちにお孫さんを連れたおばあちゃんが「被災してこの先、生活が不安だけど孫がいるので心の支えになる」と話してくださいました。なぐさめの言葉も見つからず聞き役になることしかできませんでした。

しかし、遠い長崎から良く来てくださいましたと感謝され、はじめは役に立つか心配でしたが来て良かったと思いました。

また、子育てサロンのスタッフのなかには被災して仮設住宅から通っている方もいました。ご自分も不自由な環境なのに前向きにいきいきと活動している姿を見て、立派だなと感じました。出会った方々は皆さん元気で災害に負けない力強さをお持ちの人ばかりでした。今後、この経験を子育て支援活動に活かしていきたいと思います。



▲津波が押し寄せ、流れてきたガソリンに引火し、黒こげになった石巻市立門脇小学校

## 〈参加された家庭教育支援員の方々の感想〉

★　今回の子育てボランティア支援では、支援といいながらも私の方が多くの事を学ばせていただきました。

力強く前へ進んでいる被災地の皆様から大きな勇気をいただき、NPファシリテーターや橘子育て応援隊の皆様とともに活動できた事に、心より感謝しております。

この体験を今後の地域活動に役立てていきます。

（稲田　純子）

★　現地に赴く事ができて、自然の脅威のすさまじさに人間の無力さ・非力さを改めて知らされました。すっかり廃墟となってしまった町、今まで共にいた人も、先祖のお墓さえも洗い流されてしまい、もうこれは、人生観・宗教観に及ぶものです。

「果たして私が役に立つのかな？」と思ってでかけた現地入りでした。ほんのちょっぴりでも役に立つことができたとすれば、このチームのみんなのおかげです。人と人との繋がりの大切さを、宝物のように思いかえす日々です。

（横山　久世）

★　今回の支援に参加させてもらい、命の尊さ、生命を預かるという責任を、再確認する事ができました。大難に遭っても、めげずに頑張っている方々と接する事ができました。頑張る人がいるからそれを支える人の手が生まれてくるんだと感じました。

加えて、同行したNPファシリテーターの方々による親学習プログラムでは、参加者の気持ちや行動が自然に変われる、魔法のような時間を共有できました。行かせてもらって良かったという感謝の気持ちと、もっと目的をもっておけばよかったという反省の気持ちが入り混じるのですが、自分に出来ることを見つけ、行動していきたいです。

（北城　実保）

★　石巻市、名取市の子育てサロン、遊びの広場、親子教室等で出会った子どもたち、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、現地の家庭教育支援チーム員の方々の前向きに健気に頑張っている姿に元気をもらいました。

「無理をしないで下さい」のことばをかけることしか出来ませんでしたが、安定した生活が戻り笑顔で過ごす日が来ることを祈っています。ご苦労されている中にもかかわらず温かく迎えていただいて感謝の気持ちで一杯です。

出会った方々の笑顔と思いを忘れず、この経験を生かした活動ができるよう努力を続けたいと思います。

（里　ヒロ子）

最後に東日本大震災で亡くなられた方の御冥福と、行方不明者が一日でも早く発見されることをお祈りいたします。